



やる気と笑顔にあふれ ともにかがやく 学校をめざして

曾根小だより

HP <http://www.nishikawa-sone-e.city-niigata.ed.jp/>

新潟市立曾根小学校
新潟市西蒲区曾根 750 番地
全校児童 173 名（家庭数 139）
令和 7 年 7 月 7 日発行



荒海や佐渡に横たふ天の川



校長 古井丸 裕三

今回の「曾根小だより」は、「令和7年7月7日」を発行日にしました。7が3つ並ぶ「7・7・7」の日です。元号・月・日で7が3つ並ぶのは、平成7年7月7日以来30年ぶりのことで、この100年間で3回しかないそうです。「幸運」を連想させる7という数字が3つ並ぶことから、多くの人が縁起の良い日と感じているようです。曾根小の子どもたちや保護者、地域のみなさん、教職員に幸運が訪れることを願い縁起を担ぎました。

さて、7月7日は「七夕」です。「七夕」といえば「天の川」にまつわる織姫と彦星の物語が有名ですが、私は、松尾芭蕉の「荒海や佐渡に横たふ天の川」の俳句を思い出します。この句は、荒波が打ち寄せる日本海と、その向こうに浮かぶ佐渡島、その上空に広がる天の川を対比させ、壮大な自然の風景を描写しています。また、織姫と彦星を引き離れた天の川と当時は遠流の地であった佐渡島を遠い彼方に隔てる日本海のイメージを重ね合わせ、芭蕉が心の中に思い描いた心象風景を表現した句であると言われています。

そんな豊かな自然や歴史、文化を有し、金山が世界文化遺産に登録された佐渡島に、6年生とともに行ってきました。子どもたちがずっと楽しみにしていた修学旅行です。出発の朝は雨に降られましたが、芭蕉の句にあるような荒海になることもなく、初夏の穏やかな海を感じながら活動することができました。

修学旅行は、卒業文集の題材になることも多い、小学校生活の最も大きな行事の一つです。いつまでも心に残るすばらしい旅行になるように、出発式で「みんなで旅行するときの心得」について話しました。

- ① 社会のルールやマナーを守り、周囲の人に良い印象を与えるよう行動しましょう。
- ② 自ら進んで旅の楽しさを見つけ、友達も楽しんでいるかをいつも気にかけましょう。

①で「社会性」を、②で「主体性」と「協調性」を意識させました。たった2日間とはいえ、学校を離れて社会に出て活動するわけですから、学校とは違った行動の仕方が求められます。学校の中で頼もしい姿を見せている6年生も、環境が変われば普段通りにはいかないのではないか、そんな心配をしていました。

ところが、そんな心配をよそに、子どもたちは、こちらの想像をはるかに超えるすばらしい姿を見せてくれたのです！訪れた見学先や体験活動の場所では、礼儀正しく挨拶し、丁寧に感謝の言葉を伝えることができました。移動のバスの中では、バスガイドさんの話に相づちを打ちながらきちんと耳を傾けていました。宿泊先の方からは、ビュッフェ・スタイルの食事のマナーのよさを褒められました。これまでに多くの小学校の修学旅行に同行してきた旅行社の方からは、「曾根小の子どもたちは、時間どおりに行動してくれるし、ルールやマナーをしっかり守って行動できるので安心です。」という言葉いただきました。

子どもたちは、2日間を通して、「社会性」や「主体性」「協調性」を発揮しながら行動することができました。それは、これまでの学校生活を通して少しずつ育まれてきたものであり、日ごろの家庭教育のたまものであると実感しました。子どもたちのさらに成長した姿を見て、とてもうれしい気持ちになりました。

学校に到着した子どもたちの表情には「自分たちにはできる」そんな自信が感じられました。今回の旅の経験を生かし、自分たちで考え、判断して、行動する力にさらに磨きかけることを期待しています。

○佐渡修学旅行(6年生) 6月24日(火)～25日(水)



佐渡の自然や歴史、文化を満喫してきました。友達と寝食を共にすることで、絆が深まり学級の団結力が高まりました。



○曾根小学校の歴史と伝統を感じて 6月は校祖館の書の展示を入れ替える季節です



曾根小学校は地域の大切な学校です。様々な教育活動を通して、子どもたちに地域への愛着と誇りを育てたいと思っています。代々受け継がれてきた校祖館(天満宮)への書の展示もその一つです。曾根小学校の開校に尽力した校祖・新保正與先生の思いを受け止め、自分と地域のつながりについて考えるよいきっかけになっています。